

千葉大学医学部附属病院に血栓性微小血管障害症（溶血性尿毒症症候群, 血栓性血小板減少性紫斑病, 非典型溶血性尿毒症症候群を含む）で入院された患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年7月3日
救急科・集中治療部

救急科では、血栓性微小血管障害症に関して診断や治療する方法が時代とともに変化したことで、どのように治療内容や治療結果を変化させたかを研究しています。

以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2014年4月1日～2024年5月31日の間に千葉大学病院に血栓性微小血管障害症と診断され入院された方

血栓性微小血管障害 (thrombotic microangiopathy: TMA) には以下の疾患も含まれます。

- ・ 血栓性血小板減少性紫斑病 (thrombotic thrombocytopenic purpura: TTP)
- ・ 溶血性尿毒症症候群 (hemolytic uremic syndrome: HUS)
- ・ 非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS)

1. 研究課題名

「血栓性微小血管障害症における診断・治療の変遷によって生じた影響の研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2026年12月31日

この研究は、千葉大学附属病院 観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

目的：血栓性微小血管障害症は全身の血管で血栓（血の塊）を形成し様々な臓器障害を引き起こす疾患です。原因は様々であり、その治療法も多岐に渡ります。この10年で、この疾患の中でTTPと呼ばれる血栓性血小板減少性紫斑病について検査や治療法が変わりました。その検査や治療法の変わる以前と以後で治療経過や予後がどのように変化したか調査することで、今後の治療方法の選択につながると考えています。

方法：2014年4月1日から2024年5月31日に千葉大学に血栓性微小血管障害（HUS, TTP, aHUSを含む）の診断で入院された方を対象とします。診療録から治療経過に関する情報を収集し、解析を行います。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている、患者背景、入院時の所見・経過中の採血データ・経過中のバイタルサインデータ・治療内容（投薬内容や回数、血漿交換などの血液浄化の施行内容や施行条件など）・その他電子カルテや透析部門システム・ICU 部門システムから得られる患者についての診療データ

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：救急科・集中治療部 教授 中田孝明

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院救命救急センターにおいて厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、ご説明いたしますので相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。
情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。
その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

救急科・集中治療部 医員 近藤乾伍

043（222）7171 内線6365